



Message from Prof. Kuroda

今年は海外出張が多かった。この3か月に6回出かけている。機内で映画を観る機会も増える。最近、日本語吹き替えが少なくなった。50本のタイトルの内3本しかないこともある。中国語や韓国語の吹き替えの方が多い。サービスはグローバル化とローカル化のどちらに進むのだろうか？

映画「Jobs」を観た。英語で2回観た。感動する。88年にBerkeleyで買ったMac SE/30を鮮やかに思い出す。箱を開けるところから感動があった。アイコンもフォントも綺麗だった。起動時のファンやハードディスクの音までが素敵だった。五感の全てで楽しめた。夜中に何時間も友人とチャットをした。UnixでSPICEを流し、MacDrawProで研究室ミーティング用の資料を作り、徹夜明けに自宅からネットワーク経由で研究室のプリンタに出力した。全てが楽しかった。毎日夢中になって繰り返すうちに、回路設計と作図は得意になった。そして私の人生を豊かにしてくれた。SPICEを作ったDonald PedersonとMacを作ったSteve Jobsは私の人生を豊かにした恩人である。95年に仕方なくWindowsに切り替え、いつしかMacのことを忘れてしまったが、この映画を観て青春が鮮やかに蘇った。

「Jobs」を観て、Steve Jobsと私は違いすぎることに気付く。Jobsは世の中を変える。私は何も変えられない。Jobsは理想を追う。私は現実を調整する。Jobsは人が出来ないことをする。私は誰でもできそうなことを少しだけ上手にする。Jobsはシステムを作る。私は部品を改良する。Jobsはビジネスをする。私は論文を書く。Jobsは容赦しない。私は妥協する。Jobsは冷徹である。私は温情を好む。Jobsは変人であり、私は平凡である。全てにおいて私は物足りない...

「もし今日が自分の人生最後の日だとしたら、今日やる予定のことを私は本当にやりたいだろうか？」彼は鏡の中の自らに問いかける。私も55歳になって、ようやくその心境を理解できるようになった。世の中を変えたい。技術革新を起こしたい。エジソンやSteve Jobsのように。Steve JobsがiPhoneを開発したのは53歳のときである。

2005年にスタンフォードの卒業式でしたSteve Jobsの式辞は最高だ。”Stay hungry, stay foolish.” スピーチをiPadに入れて持ち歩き、ときどき聞き返す。中でも次のフレーズが気に入っている。

Don't lose faith. I'm convinced that the only thing that kept me going was that I loved what I did. You've got to find what you love. And that is as true for your work as it is for your lovers. Your work is going to fill a large part of your life, and the only way to be truly satisfied is to do what you believe is great work. And the only way to do great work is to love what you do. If you haven't found it yet, keep looking. Don't settle. As with all matters of the heart, you'll know when you find it. And, like any great relationship, it just gets better and better as the years roll on. So keep looking until you find it. Don't settle.

好きなことに打ち込み、世の中を変える。なんて素晴らしい！